

平成29年度 防犯ボランティア活性化フォーラム

平成30年1月30日(火)、名古屋市東区のウィルあいちにおいて、防犯ボランティア団体の課題を洗い出し、解決策を見出すことで、防犯ボランティア団体自体や、これを支援する行政、警察がそれぞれ取り組むべき方向性を考える機会として、自治会や防犯ボランティア団体、自治体職員、警察署員など約230名が参加するフォーラムを開催しました。

<基調講演>

講師：東京未来大学 こども心理学部長・教授 出口 保行 氏

演題：「攻める防犯という考え方」－今私たちにできること－

- 概要：○物理的防犯だけで守りきれない。心理的防犯＝攻める防犯。犯罪者の心理を逆手に取って、被害者目線ではなく犯罪者目線に立つ防犯が必要。
- 相手の手の内を知ることが攻める防犯にとって重要。犯罪者が嫌がることを行うこと、この地域では犯罪ができないと思わせることが大切。
 - 社会・経済情勢により犯罪も変化、犯罪の現状を知らずして対応策なし。主観的現実（思い込み）形成で犯罪認識は違ってくる。犯罪や犯罪者について正しく認識し、犯罪が多発する時間帯や場所に絞り込んだ防犯活動が必要。
 - 動機と犯罪の関係は意思決定と行動化。動機形成までは犯罪ではなく、実行に移した瞬間に犯罪になる。攻める防犯は、ボランティアの顔が見えていることで犯罪者化させない、地域の絆で意思決定・行動化させない。
 - コスト・パフォーマンスではなく、リスクとコストで考える防犯。犯罪を起こすことにかかる労力、得られるものの大きさを考え、リスクとコストが大きければ犯罪は起きない。ボランティアが見ていると思わせることは犯罪者にとってリスク。
 - 攻める防犯はお金をかけない。従来はマナー教育の一環であった挨拶運動や、住民同士の声掛け運動は効果的。攻める防犯の主役は防犯ボランティア。



<防犯ボランティア団体発表>

発表者：大杉学区連絡協議会（名古屋市北区） 川村 和光 氏

テーマ：大杉学区の防犯活動

- 概要：○「愛スクールパトロール隊」による登下校時の見守り活動等を実施。自転車の前かごに取り付けるプレートも作成、住民に有償配付。地域の絆を強化。
- パトロール時の連絡網にも活用できるトランシーバーを整備。中継装置を手作りで設置したことで学区内をカバー。停電時は、太陽光発電パネルとバッテリーで電源供給し、電話が使用不可能な場合でも連絡可能。
 - 名古屋市の防犯カメラ設置補助制度への積極的な応募により防犯カメラ整備を促進。



発表者：北一社学区セーフティ・パトロール隊（名古屋市名東区） 鷺見 憲文 氏

テーマ：防犯カメラ設置と防犯意識啓発で犯罪抑止

- 概要：○隊員が設置工事を行い、民地設置・民地電源使用で防犯カメラ設置費用1か所約5万円を実現。反射素材による「光る看板」を設置し、防犯カメラの存在をアピール。
- 住民向け防犯教室を開催しているほか、登録住民にベスト等を貸出し、着用で地域の目をアピールする「お散歩パトロール」を行い、地域全体の防犯に取り組んでいる。
 - 花の手入れ時に登下校の見守りや通行者への挨拶で警戒活動を行う「花咲かせ隊」を結成。地域の目を強化。

